

## 大学英語とパソコン

鈴木 元子

College English and PC

SUZUKI, Motoko

### はじめに

情報教育が声高く叫ばれるようになった。昨年も、「IT 革命」という言葉がマスコミを通じて各家庭のお茶の間にまで浸透した。大学の教員として、大学生には、外国語（特に英語）とパソコン操作を身に付けて社会に出て行って欲しいと願っている。情報教育<sup>1</sup>とは、情報化の進展に伴い、コンピュータなどの教育機器を学習に利用するほか、高度情報社会を生きる人間を育てるために、情報と情報手段を主体的に選択し、情報活用する能力を育成することである。学習指導要領では、小学校からコンピュータを教具として使用し始め、中学校では技術・家庭科の「情報基礎」、高校ではコンピュータを中心にした「数学C」を置くなど、コンピュータに関する教育を積極的に推進している。文部省は、1994年度からマルチメディアや高度情報ネットワークに代表される情報化の進展に対応して、約6年間で、コンピュータ教室に小学校で児童2人に1台、中学・高校では生徒1人に1台をめどに整備計画を進めている。このような状況下において、大学の英語教育・研究においては、一体どのようにパソコンを利用することができるのだろうか。このテーマのもとに研究を続けているが、教師自身が進取の精神をもって、コンピュータの急速な発展について行かなければ、取り残されてしまう昨今である。

平成9年度は、英語教材ソフトの研究を主要テーマに、CAI (Computer Assisted Instruction) 授業の展開の仕方や、英語教材ソフトを実際に授業で使用してみたの、学生の反応や意見を調査し、論文にまとめることができた<sup>2</sup>。平成11・12年度は、さらに木目細かい形でのパソコン利用法について、即ち、英会話や総合英語教育の教材のみならず、大学教員や大学生の英米文学研究等におけるパソコンの有益性についても、様々な角度から探求することを課題としてみた。以下、項目に従って論述していきたい。

<sup>1</sup> 『知恵蔵 1999』(朝日新聞社、1999年) 330頁。

<sup>2</sup> 鈴木元子「大学英語教育におけるコンピュータの利用」(『特別研究報告書[平成9・10年度]』静岡県立大学短期大学部、1999年、109-120頁)。

## ．インターネットの利用

### 1. 英字新聞を読む

私は英字新聞の *The Daily Yomiuri* を購読しているので、毎日、日本の読売新聞と海外のニュース記事を英語で楽しく読んでいる。『ザ・デイリー・ヨミウリ』は購読料も安価で<sup>3</sup>、その上、『ワシントン・ポスト』や『ロサンゼルス・タイムズ』<sup>4</sup>などの外国の主要な新聞からの転載記事も多く、読み応えがある。大学生にも英字新聞に親しんでもらいたいので、読み終えた新聞をゼミ生に、「読んでみる？」と言って手渡すこともある。とは言え、学生に英字新聞の購読を勧め、生活費の限られた彼女たちに小遣いを使わせる気にもならない。そのような時にお勧めなのが、Web上の英字新聞である。

どの新聞も、最近はホームページを有するようになってきている。例えば、『ザ・デイリー・ヨミウリ』なら、「<http://www.yomiuri.co.jp/daily>」というホームページにアクセスすれば良い。しかし、まず大学生に勧めているのが、CNNのサイト（<http://www.cnn.com>）である。アメリカ大統領選の時期には、ブッシュ候補とゴア候補の票数が毎日掲載され、その動きを正確に把握することができた。新聞の見出しから、自分の興味のある記事を選んでクリックし、本文を画面に出して読むことができるが、そこで即座に読まなくても、印刷しておいて、後で時間のある時に読むこともできるし、必要な所だけを資料として保存することもできる。インターネット版のCNNでは、映像を見たり、ちょっとした音声を聞くこともできる。

このCNNのサイトは、「TIME.com」ともリンクしていて、1月23日付けの場合、「タイム・ドット・コム」のMagazineの、「The Tragic Tale of Twins for Sale」の見出しをクリックすれば、その記事を読むことができるし、また、Photo Essayの「Clinton's Last Days」をクリックすれば、短い解説付きのクリントン大統領の写真を見ることが出来る（January 23, 2001, updated 10:05 p.m. 現在）。また、「CNN.com」の右側、ディスカッションの見出しの下には、「message boards」（掲示板）、「chat」（おしゃべり、雑談）、「feedback」（フィードバック）の選択肢がある。「チャット」では、ブッシュ新大統領の就任チャット筆記録（Inauguration Chat Transcripts）に目を通すことができる。「フィードバック」のページでは、アクセスした人のコメントを送るコーナーもあり、情報の送り手と受け手が、互いに情報交換をすることができるのもインターネットの利点である。日本人大学生がCNNに英語で意見を送り、何ら可笑しいことはないのである。このページは、幾つかの外国語から言語を選ぶこともでき、日本語を選択することもできるが、やはり英語で読んだ方が面白い。

<sup>3</sup> 一ヶ月 2,650 円。

<sup>4</sup> 例えば、2001年1月29日付けの *The Daily Yomiuri* の場合、「Los Angeles Times World Report」が、9～14ページに渡って掲載されている。

政治・経済だけではなく、文化関連の記事も充実している。何気なく開いた 2000 年 11 月 28 日付けの CNN サイト「CNN.com.book news」から、最近発行された『ソール・ベロー自叙伝』<sup>5</sup>の書評やその他諸々の情報を運良く手に入れることができた。リンク先 (Related Sites)として上げられていた「Saul Bellow Society and Journal」(ソール・ベロー学会と学会誌)、「Encarta: Saul Bellow」(エンカルタ百科事典：ソール・ベロー)、「Random House」(ランダムハウス英語辞典)を次から次へと開いて行くことによって、アメリカのソール・ベロー協会とそのニュースレターおよび学会誌、またベローの諸作品の批評書・論文、学会の年次大会報告書・学会予定、入会や学会誌購読申込のページにまで進んで行くことができた。さらには、「電子図書館」にまで行き着いてしまったのである (<http://www.elibrary.com>)。このようなことは、紙の英字新聞では決して起こらないことである。

その他、一般的なニュースを毎日とりあえず押さえるためなら、ヤフーの日本語ニュース・ページ (<http://news.yahoo.co.jp/headlines/>)がある。「ニュース検索」もある。「トピックス」「Yahoo! 掲示板」「きつずニュース」「写真ニュース」「ビデオニュース」のカテゴリーの他に、以下のようなジャンルと各新聞名があり、それぞれ好みのものをクリックして開いていくことができる。

- ・トップニュース
- ・国内 (毎日新聞、時事通信)
- ・海外 (ロイター、時事通信、毎日新聞、NNA)
- ・経済 (ロイター、毎日新聞、時事通信)
- ・マーケット・サマリー (ロイター、フィスコ、ラジオたんぱ、ダウ・ジョーンズ)
- ・企業 (フィスコ、時事通信、ラジオたんぱ、ZDNet 投資情報、テクノバーン、ダウ・ジョーンズ)
- ・天気
- ・エンターテインメント (ロイター、毎日新聞、サンケイスポ - ツ / タ刊フジ)
- ・スポ - ツ (ロイター、毎日新聞、時事通信、サンケイスポ - ツ / タ刊フジ、NFL JAPAN LINK)
- ・地域 (北海道、東北、中部、近畿、京都新聞 / 朝日放送、九州)
- ・産業 / プレス・リリース (日刊工業新聞、毎日新聞)
- ・コンピュータ (ソフトバンク、WIRED、Scan、BCN、MYCOM PC WEB、インプレス)
- ・ニュース・コラム
- ・ランキング

例えば、「海外」の中の「ロイター」を開くと、その日の主なニュース記事の小

<sup>5</sup> James Atlas, *Bellow: A Biography* (Random House, 2000).

見出しと、前日までの記事と、ページの下には「ニュース検索」があり、「本日も分とバックナンバーの記事が検索できます」とあるので、調べ物には大変重宝する。

さらには、「ヤフー・ニュース・ジャパン」のページの一番下には、各国のニュースとして、「アメリカ」「カナダ」「ブラジル」「メキシコ」「アルゼンチン」「スペイン語」「イギリス」「ドイツ」「フランス」「イタリア」「スペイン」「デンマーク」「ノルウェー」「スウェーデン」「アジア」「オーストラリア/ニュージーランド」「韓国」「香港」「シンガポ-ル」「台湾」「中国語」「中国」「インド」のリンクが張られている。

海外のニュースならアメリカのヤフー (<http://news.yahoo.com>) が良い。経済関係について何か調べるには、「The New York Times on the Web」 (<http://www.nyt.com>) の「SEARCH」(検索) で調べる道もある。

## 2. ネットスケープの使い方

ネットスケープ (<http://www.netscape.com>) にアクセスするのも有益である。最初の画面の Departments には、「Autos」「Bus. & Careers」「Computing」「Entertainment」「Health」「House & Home」「International」「Lifestyles」「Local」「Music & Radio」「News」「Research & Learn」「Shopping」「Sports」「Travel」の 15 ジャンルが並んでいる。そこで、例えば、「News」を選べば(1月25日付) ジョージ・W・ブッシュ新大統領の就任演説の全原稿を入手することができる。

This peaceful transfer of authority is rare in history, yet common in our country. With a simple oath, we affirm old traditions, and make new beginnings. As I begin, I thank President Clinton for his service to our nation. And I thank Vice President Gore for a contest conducted with spirit, and ended with grace. I am honored and humbled to stand here, where so many of America's leaders have come before me, and so many will follow. . . .

( " Bush's Inaugural Speech " )

これは、大学生に読ませるアップツーデートな教材になり、ありがたい。「ネットスケープ・ドット・コム」で一番勧めたいのは、「Research & Learn」をクリックして、「Encyclopedia Search」および「Dictionary Search」をし、知らない言葉を百科事典や英英辞典で調べて、その意味を知るという使用方法である。この活用法が分かれば、お金をかけて、百科事典や英語大辞典、CD-ROMなどを揃えなくても用が足りてしまう。

このようなわけで、大学の英語の授業にインターネットを多いに用いることは

可能である。簡潔にまとめてみると、次のことがまず提案できる。

第一に、インターネットにより、教材を得ることである。ニュースの英文を読ませたり、音声データを学生にダウンロードさせて聞かせる。

第二に、インターネットを通して、日本の大学生と諸外国の大学生とがホームページにアクセスし合ったり、電子メールを交換して、異文化理解や国際交流に役立て、さらにはその興味・関心・好奇心を外国の地域研究に発展させていく。

第三に、インターネットにより、卒論執筆のための研究資料・文献・情報等々を収集する。ニュースやデータベースから、語源、歴史、文化背景、思想など、必要な情報をプリント・アウトして、整理し、分析論考して卒業論文へとまとめていくことができる。

### 3. オンライン百科事典

外国の言語、文化、文学を教授している英語教員は、英語辞書にはない知識をも要求されるものである。次に挙げるオンライン百科事典は、東海大学の朝尾幸次郎教授<sup>6</sup>の URL に張られているリンクからもたどることができる (<http://www.hum.u-tokai.ac.jp/asao/etm/epedia.html>)。

(1) 「Britanica.com」 (<http://www.britanica.com>)

英語版百科事典の代表である『ブリタニカ百科事典』のオンライン版で、無料で公開されている。オンライン利用の効力は、キーワードを組み合わせて検索できることである。また、自然言語、すなわち我々の日常会話でも検索できる。例えば、“What is the longest river in the world?” と書いて検索すれば、解答が与えられる。

(2) 「FunkWagnalls.com」 (<http://www.funkwagnalls.com>)

Funk & Wagnall 社の提供するサイト。百科事典の他に、辞書、シソーラス、世界地図、ニュース、アニマル・ブック、メディア・ギャラリーを検索することができる。画像も多い。

(3) 「Columbia Encyclopedia」 (<http://www.bartleby.com/65>)

*The Columbia Encyclopedia, 6<sup>th</sup> Ed.* のオンライン版。

(4) 「Encyclopedia.com」 (<http://www.encyclopedia.com:80/login.html>)

*The Concise Columbia Electronic Encyclopedia, 3<sup>d</sup> Ed.* のオンライン版。Web ページへのリンクが、17 万件以上もあるのが特徴。

(5) 「Information Please」 (<http://www.infoplease.com>)

<sup>6</sup> 朝尾幸次郎「ネットワーク通信：オンライン百科事典」『英語教育 1』(大修館書店、2001 年 1 月)

Almanac として定評のある Information Please のオンライン版。  
Almanac, Dictionary, Encyclopedia, Atlas の4つから検索可能。

(6) 「Kid's Almanac」(<http://www.yahooligans.com/content/ka>)

子どもを対象とした百科事典的情報源。キーワードから検索をせずに、分野を絞りながら目的の知識にたどり着く仕組み。目次には、「Animals」「Body-&-Food」「Book-Baedeker」「Business-&-Technology」「Creature-Catalog」...の15ジャンルが用意されている。

(7) 「Fact Monster」(<http://www.factmonster.com>)

Information Please が提供している子ども向けの情報源。キーワード検索。カテゴリとしては、「World & News」「US」「People」「World Wise」「Science」「Math」「Sports」「Cool Stuff」「Games & Quizzes」「Homework Center」があり、面白そうである。英語の苦手な人、初級学習者にはかえって分かりやすい英語に接することができるかもしれない。

(8) 「Guinness World Records」

(<http://www.guinnessworldrecords.com>)

世界記録を集めたギネス・ブックのページ。雑学的知識を探すのに役立つ。"Find A Record" の空所に英語で問いを入力して、"go!" をクリックすると、ギネスブックに登録されている記録を検索することができる。

#### 4. 翻訳のための情報検索

大学で英語の授業を選択する学生にその動機を聞いてみると、就職に有利、海外留学、翻訳家・通訳志望というのが圧倒的に多い。つまり、大学の英語科目に対して、高校や大学受験の英文解釈を超えたところの読解力をつけたいと学生たちは期待しているのである。単に、一般教養としての英語科目のみならず、英米文学の作品読解や批評が始まればなおさらである。その上、自分の専門分野の文献として、洋書（英語）を読み始めるのも大学においてである。そうしたことを考え合わせると、大学生には、かなり正確な読解能力を身に付けるためのハウツーを教授しなければならないと痛感する。そうした要望に応えるために、最近では「翻訳」の講座を開講している大学も見受けられる程である。

ホームページでは、現在の、日本における翻訳の世界について垣間見せてくれるのが、「eHONYAKU-Zine」(<http://www.e-trans.co.jp>)である。トップページから、「求人・派遣情報」「Qualified!(資格)」「eイベント」「おすすめブック&ソフト」「読者投稿掲示板」「世界の作家」「世界の翻訳家」「アメリカの出版業界事情」のページに入っていける。

また、世界初だそうであるが、インターネットの翻訳大学院も開校された：



「BABEL University Professional School of Translation」(<http://www.babel-univ.org/>)。カテゴリーとしては、翻訳・通訳者を探している人への「通訳・翻訳サービス」もある。大学生に面白そうなのは、翻訳者としての適性を総合的に判断する、無料の「翻訳適性診断！」や、自分の翻訳力がどのくらいか知りたい人への、無料の「Let's Try! ジャンル別翻訳力診断！」であろう。将来、翻訳者を希望している者は、この Web 上のテストを受けてみてはどうだろう。

では、次に、優れた翻訳をするために、具体的にどのようにパソコンを利用することができるかについて見てみよう。

#### (1) パソコン用語を調べるためのオンライン辞書

専門用語を調べるために、いちいちその分野の専門辞書を買うのも切りがない。そこで、インターネット上で、無料で技術や用語の解説を公開しているサイトを積極的に活用したいものである。パソコンの専門用語に関しては、次の二つのサイトを挙げたい。

・「アスキー デジタル用語辞典」(<http://www.ascii.co.jp/ghelp/>)

アスキー デジタル用語辞典は、基礎的なパソコン用語から難しい専門用語まで、コンピュータに関連する用語を幅広く収録したインターネット上の用語辞典である。解説は分かりやすく、内容もしっかり更新されているので、最新の技術用語を調べることができる。例えば、調べたい言葉「URL」を入力して検索すると、3件の検索結果が表示される。

- ・ URL (月刊ドット PC)
- ・ URL [ Uniform Resource Locator ] (Glossary Help)
- ・ URL (Macintosh 用語辞典)

そこで、真ん中の「グロッサリー・ヘルプ」の URL を選んでクリックすると、下記の用語の解説ページが現れる。

URL  
Uniform Resource Locator  
Internet 上のリソースのロケーションを指し示す記述様式。  
[ 例 ] <http://www.ascii.co.jp:80/pubindex.html>

.....

と解説は続く。

・「インテル e ビジネスセンター」

(<http://www.intel.co.jp/jp/commentary/index.htm>)

PC の世界を読み解くための用語解説を中心に、PC 全般についての技術的な解説や FAQ (よくある質問) を紹介している。「e-Business に関する用語集」で

は、キーワード検索ができる。

## (2) オンライン・ソフトウェア

インターネットで無償でダウンロードのできる利用価値の高いソフトウェアは、マイクロソフト社の「Internet Explorer」と、ネットスケープ・コミュニケーションズの「Netscape Communicator (Navigator)」である。その他には、次のものを紹介したい。

### ・「Acrobat Reader」

これは、アドビのホームページ (<http://www.adobe.co.jp>) からダウンロードすることができる。トップページのアドビ製品情報の中の「プラグイン&アップデート」をクリックすると良い。「製品体験版&ベータ版」をクリックすれば、最新の製品をダウンロードして、有効期間の30日間、無料体験をすることができる。

### ・「Real Networks」(<http://www.jp.real.com/>)

Windows 版、Macintosh 版、UNIX 版の RealPlayer G2 を無料でダウンロードできる。

### ・「Quick Time」(<http://www.apple.co.jp/quicktime/>)

Windows 版、Macintosh 版の Quick Time をダウンロードできる。

### ・「窓の杜<sup>もり</sup>」

Windows 用のフリーソフトやシェアウェアを揃えている、オンラインソフト紹介サイト「窓の杜(まどのもり)」(提供：インプレス)のサイト (<http://www.forest.impress.co.jp/>) には、役立つソフトウェアが満載されている。例えば、トップページの「窓の杜ソフトライブラリ 1 月版追加ソフト」をクリックする。ソフト一覧のページに行くので、その中から自分が欲しいソフトを選ぶ。「マウスの右クリックだけで文字を入力できるソフトキーボード」(Hearty Ladder) が面白そうだと思えば、「詳細」をクリックする。それから、詳細画面のダウンロードの文字をクリックする。このような仕組みである。Macintosh のオンラインソフト紹介サイト「林檎の杜<sup>もり</sup>」もオープンしている。

## (3) 翻訳者のための検索お勧めサイト<sup>7</sup>

### ・「f 翻訳 LINKS」

(<http://www.nifty.ne.jp/forum/fhonyaku/link.htm>)

ここから代表的な検索エンジンにアクセスできて便利である。また、翻訳に役立つリンク集が心強い。

<sup>7</sup> 『eとらんす9』(パベル・プレス、2000年)



・「Altavista」(<http://www.altavista.com/>)

二重引用符で括ることにより、完全一致の語句を検索する時に使用する。例えば、お豆腐を調べたい時に、検索語句として"tofu"を入力するが、言語選択において、「Japanese」にした時と、「English」や「Any Language」にした時とで、参照する URL 箇所が異なり、面白い。この二重引用符の中に人物名を入れて検索することもできる。大学の教員だと、著書や論文などの業績が出てくる。また、リンク先の「WorldPages.com」に人物名を入れると、アメリカ人の場合、その方の住所や電話番号まで出てくるので恐ろしいほどである。

・「Google」(<http://www.google.com/>)

検索結果の表示に、該当する用例がそのまま引用されて便利である。検索のために要する時間も短く、物凄い馬力である。

・「Internet Resources 翻訳のためのインターネットリソース」  
(<http://www.kotoba.ne.jp>)

日本のサイトで、日本語表示であるから、リラックスして利用することができる。「リソースリスト」「カテゴリ別一覧」「定番カテゴリ」「サイト内検索」「定番辞書サイト」があり、オンライン辞書から、専門用語集、資料サイト、検索エンジン、百科事典、またジョーク・ユーモア系の「言葉遊び」などあらゆる翻訳に必要なツールにリンクが張られている。「ホームページ制作支援」もあれば、ダウンロード専門サイトの「フリーウェア」や、ファイルダウンロード系の「ダウンロード」へのリンクもある。

・「LOGOS: Multilingual E-Translation」(<http://www.logos.it/>)

ロゴスは、英語以外の多言語を調べる時に役に立つ。

・「私立 PDD 図書館」(<http://www.cnet-ta.ne.jp/p/ddlib/>)

国語辞典関係に強みがある。「私立 PDD 図書館について」「日本文学」「百科辞書」「人名辞典」「法文関係」「PDD 画像」等のカテゴリーがある。ここにある「人名辞典」は可視テキスト・ファイルでダウンロードできる。

・「団体名英語表記一覧」(<http://www.fuji.ne.jp/~fujioka/d.html>)

一般企業以外の公的 성격の強い団体や組織、機関の名称とその英語表記のリスト。

・「ZDNet Japan」(<http://www.zdnet.co.jp/>)

コンピュータ関係。最新のニュースや用語を調べるのに便利。

・「The Internet Movie Database」(<http://us.imdb.com/>)  
映画関連。

・「全洋画 ONLINE」(<http://www.stingray-jp.com/allcinema/>)

探したい映画の題名か人名を入力して、検索ができる映画関連のサイト。

## 5. 英米文学研究にインターネットの書評サイト

英米文学研究についても、情報ハイウェイを流れている膨大な情報の中から、有益な情報を拾い、大いに活用することができる。最も人気の高い検索エンジンである、アメリカの Yahoo から、書評サイトに入っていく、自分の研究する作品の書評を簡単に入手することができる。その手順をここに紹介してみると、まず「ヤフー」(<http://www.yahoo.com/>) にアクセスする。そして、「Arts & Humanities」の中の「Literature」をクリックして、カテゴリーの中の「Reviews」をクリックすると、書評サイトにたどり着く。ページの上に検索があり、その下に書評サイトのリンク一覧がある。人気の高いサイトとして 10 サイトが上げられている。「CNN: Books」「Name Base」「Book Page」「Romance Reader」「Native American Books」「Bookreporter.com」「Boston Book Review」「Midwest Book Review」「Book Radio」「Mystery Reader」。

### (1) 「New York Review of Books」(<http://www.nybooks.com/nyrev/>)

トップページの Archives を開き、書評記事の検索をする。検索方法は、記事の著者名、記事のタイトル、本の著者名、本の題名、出版社名、キーワードの中のどこかに入力して検索をする。例えば、本の著者名に、Saul Bellow と入れてみると 14 件の検索結果が出てくる。書評の年月日、書評執筆者、ソール・ベローの作品名について上げられているので、その中から読みたい記事をクリックして、即座に目を通すことも、また印刷しておくこともできる。今回は、ベローの最新作 *Ravelstein* の書評を印刷する。

### (2) 「Book Page」(<http://www.bookpage.com/>)

月 1 回、100 冊近くの新刊書を紹介する書評サイト。作家のインタビュー記事もある。ここでも、Archives に Saul Bellow と入力してサーチしてみる。6 つのドキュメント結果を得ることができた。最新作 *Ravelstein* の書評を印刷する。

### (3) 「Go.com」(<http://www.go.com/>)

Saul Bellow と入れて検索すると、2843 件という数字が出てきてしまったので、次に *Ravelstein* と作品名を入力し、242 件という結果を得た。

## 6. 文学作品の電子データ

1986 年に刊行されたオックスフォード版シェイクスピア全集は、その 3 年後に電子版 (Electronic edition) としてフロッピー・ディスクで売り出されている。その利点は、検索が可能で早いこと。作品をハイパーテキストとして読むことにより、読む行為を従来の個人の直感的・感性的読みから、数量的なものに変

質させたという。この電子データは、インターネット上でも提供されている。例えば、オックスフォード大学コンピュータ・サービス (archive@vax.oxford.ac.uk) にカタログを請求すると、文学作品全データの目録をくれる。

(1) 「世界の電子テキスト・サイト」

(<http://clinamen.ff.tku.ac.jp>) の山崎カヲルのホームページにアクセスしてから、トップページの下の方にある「その他の電子テキスト・サイト」をクリックして開くと、約 170 ほどのリンク先一覧に至る。

(2) 「ペンシルバニア大学 The On-Line Books Page」

(<http://digital.library.upenn.edu/books/>) にアクセスして、「ブックス オンライン」の著者名 (Authors) 検索で、例えば、「bellow, saul」では該当するものがなかったが、「hawthorne, nathaniel」で入力すると 22 件の検索結果が出てきた。また、書名 (Titles) 検索で「scarlet letter」と入力すると (A や The は省略) 次の検索結果を得ることができた。

- *The Scarlet Letter* by Nathaniel Hawthorne (Gutenberg text)
- *The Scarlet Letter* (Ticknor and Fields edition, 1850) by Nathaniel Hawthorne
  - [HTML with commentary at Eldritch Press](#)
  - [HTML at Bartleby](#)

最初の「Gutenberg text」をクリックしてダウンロードし、自分のパソコンの画面に『緋文字』の“THE CUSTOM HOUSE”、“It is a little remarkable, that...”の一節が現れ、さらにずっと先に進んで、1章の冒頭が出てきた時には、本当に興奮して胸がわくわくした。

A throng of bearded men, in sad-coloured garments, and grey, steeple-crowned hats, inter-mixed with women, some wearing hoods, and others bareheaded, was assembled in front of a wooden edifice, the door of which was heavily timbered with oak, and studded with iron spikes.

(3) 「Bartleby.com - - Great Books Online」(<http://www.bartleby.com>)

アメリカ文学関係では、S. Anderson, W. Cather, F. S. Fitzgerald, N. Hawthorne, H. James, H. Melville, E. O'Neill, E.A. Poe, M. Twain, E. Wharton などの電子データが充実している。

その他、多くの電子テキスト・サイトがあると思うが (米英の大学を中心に) 勿論、全作品が電子データとして備えられているわけではない。しかし、お金を払って日数をかけて洋書の注文をしなくても、自分の読みたいテキスト (特

に古典的名作)を自室で読むことができる、こんな夢のような話はない。

## . CD-ROM の活用

### 1. 辞書

これらの大辞典・大百科辞典の CD-ROM 版の良さは、まず図書館まで調べに行かなくてすむこと、書籍版に比べて価格が大幅に安く、個人でも購入することができ、また手元に置いて、自分のパソコンで好きな時に利用することができることである。書籍版の場合、活字が小さく読みづらいものも、例えば、*OED* の CD-ROM では、文字の種類も大きさも、好みに合わせて自由に変えることができる等の大きな利点がある。パソコンで利用できる辞書には、主に次のようなものがあるが、近年その数は激増しており、残念ながら全てにコメントすることはできない。

#### (1) 『CD-ROM 版 リーダーズ+プラス V2』

(研究社、2000年7月、ISBN 4-7674-3563-3、定価2万円)

研究社のホームページは、(<http://www.kenkyusha.co.jp>)である。46万語を収録した、最大級の電子英和辞典である。書籍版との違いは、見出し語検索のほか、訳語見出し語検索、カタカナ検索、複合検索、条件検索、参照検索、メニュー検索ができる。ハードディスクでも運用ができる(ディスク容量約550MBが必要)。

#### (2) 『ランダムハウス英語辞典 CD-ROM 版』(小学館)

収録語数は34万5千語で、インターネットのブラウザやワープロソフトから簡単に検索できる(前方一致検索、後方一致検索、中間一致検索、成句検索、用例検索、ワイルドカード検索)。約12万の単語に、ネイティブスピーカーによる音声発音付き。書籍版にない和英辞典を追加機能とする。

[12cm CD-ROM 1枚、価格15,000円]

#### (3) 『オックスフォード英語大辞典 第2版 CD-ROM 版』

(*OED 2<sup>nd</sup> Edition CD-ROM for Windows Version 2.0*)

1989年に出版された冊子体の *OED* (*The Oxford English Dictionary*) 第2版は全20巻、見出し語数は約240万を誇る、通常価格50万円もするものである。1928年の初版以来、*OED* は今世紀を代表する出版物とさえ言われてきた。英語や英文学、英国文化を知るための最も信頼できる英英辞典、広範囲な研究に役立つレファレンス、そして多くの科学技術用語が収録されているほか、法律用語などの解釈でも権威ある英語辞書と評価されている。外国語からの借用語も収められており、語源辞典としても定評がある。その CD-ROM 版である。

[Windows 95, 98, NT 4.0 対応、ISBN 0-19-268788-3、定価約5万円]

大学生や大学院生、研究者に便利である。自分の PC で動かすことが難しい人に

は、「OED オンライン」(<http://www.oed.com>)もある(最初に利用者登録が必要)。

(4) 『CD-ROM 版 ウェブスター英英大辞典 第3版』

(*Webster's Third New International Dictionary Unabridged CD-ROM*)

アメリカ英語の辞書として最大級、かつ最も信頼されている辞書の一つである。見出し語数 47 万以上、ブックマーク機能付き、14 万語を越す語源の解説付き、1 千枚のカラーイラストが収録され、インターネット上の情報源にもアクセス可能である。

[Windows 95, 98, NT, 2000 / Macintosh 7.5 以上に対応、2000 ISBN 0-87779-468-5、定価 11,600 円]

(5) 『ニュー・ショーター・オックスフォード英英辞典 CD-ROM 版』

(*New Shorter Oxford English Dictionary Windows CD-ROM*)

1997 年に全面改訂された *New SOED* 全 2 巻の CD-ROM 版である。定義は 50 万語収録。Simple Search と Full-Text Search の 2 画面があり、語源や俗語からの検索も可能である。アナグラムや韻を踏む語や、発音記号から検索する Special Search は、英語の専門家やワードゲーム愛好者に好評である。

[Windows 3.1, 3.11, 95, NT 対応、ISBN 0-19-268302-0、定価約 7660 円]

## 2. 百科事典

具体的には、例えば、『エンサイクロペディア・ジュダイカ』(英語版 ユダヤ大百科事典)(ミルトス社取り扱い)に例を取ってみよう。ユダヤの歴史、哲学、宗教、科学、政治、経済、芸術などを第一線の研究者が執筆した『ジュダイカ』は、1972 年に発刊され、英語で書かれたユダヤ百科事典としては、その質・量ともに比類なき事典として有名である。書籍版は、全 18 巻、総頁 12,000 頁にも及ぶ大事典(英語版)で、本体価格が 15 万円である。

これに対して、その CD-ROM 版の特徴は、たった一枚の CD-ROM に収まり、定価は 7 万 8 千円と書籍版の半値である。さらに、25,000 項目の記事を、キーワードで瞬時に検索をすることができる。ハイパーリンクで、記事内の関連項目にジャンプすることができる。2,500 点の写真と 100 点の音楽、ビデオ、地図、表によって理解が深まるメディア・ギャラリーさえ有している。再度見たい所は、ブックマークを付けることができる。「ガイド・ツアー」が機能や使い方を説明してくれる。このような特徴が、百科事典の CD-ROM 版にはある。主要なものを次に挙げてみる。

(1) 『マイクロソフト・エンカルタ総合大百科 2000』(CD-ROM 版)

(マイクロソフト社、28,000 円)

(2) 『世界大百科事典第2版』  
(日立デジタル平凡社、32,000円)

(3) 『スーパー・ニッポニカ 2001、CD-ROM版 / DVD-ROM版』  
(小学館、39,000円)

書籍26巻が、CD-ROM版では4枚組、DVD-ROM版では1枚に収められている。日本大百科全書に国語大辞典をプラスしたもので、その内容には38万項目、9千万文字、写真・図解(1万点)、アニメーション(80点)、ビデオ映像(140点)、ぐるぐるフォト(60点)、音楽(320点)、URLリンク(6500点)と最新の詳細地図が含まれている。

(4) 『CD-ROM版 ブリタニカ大百科事典』  
(*Encyclopaedia Britannica on CD-ROM 2001 Edition*)

これは、冊子体ブリタニカの7万2千項目の全文を収録しており、さらにはYearbook 1998, 1999の情報が追加されている。約8千枚の図版と地図が収められていて、インターネット上の「Britannica.com」へのアクセスも簡単である。『ブリタニカ大百科事典』の冊子体が全32巻の膨大なもので、価格も約30万円(1998年版)であることを考えると、CD-ROM版が如何に場所を取らずにハンディで、その上安価であるかがよく分かる。

[CD-ROM2枚セット、KBN 0010339003-1、定価は1,5000円。Windows 95, 98, Windows 2000, Windows ME対応]

### 3. 電子辞書

大学の英語の授業でも、電子辞書を持参してくる学生がめっきり増えてきた。この人気の高まりは、搭載されている辞書の充実、小型化・軽量化が進み、使い勝手が向上したことに起因すると考えられる。分厚い辞書を数冊持ち運ぶ代わりに、電子辞書一つあれば済む。名刺ケースサイズのものも発売されている。男性ならポケットにちょっと入れて、女性ならハンドバックに忍ばせてどこにでも持っていける。大学にも、海外旅行にも、ビジネスにもOK、本や新聞を読む時に、いつでも、どこでも簡単に辞書を引くことができる。ここでは、カシオとキャノンのものを、例として取り上げてみたい。

(1) カシオの「エクスワード」

このシリーズは、辞書機能をポケットサイズにし、カスタマーが自分の目的や用途に合わせて電子辞書を購入できるようにと様々なタイプを用意している。一番のお勧めは、「XD-S2100」(JIS配列キー) / 「XD-S2200」(50音配列キー)である。これには、『広辞苑』(第5版、23万項目)と『ジーニアス英和辞典』(約9万2千語)、『ジーニアス和英辞典』(約8万語)、『類語辞典』(約2万語)、『漢字辞典』(10万8千語)の5冊の辞書が内蔵されている。広辞苑モード画面は文字が大きく見やすい。文字の大きさを簡単に切り替えることができ



る。薄さ 16.5 ミリの薄型で、A6 サイズのコンパクトボディ、持ち歩くのに便利である。検索機能も、慣用句検索（広辞苑モード）、成句検索（英和モード）、スペルチェック（英和モード）、ヒストリーサーチ（一度調べた言葉をすばやく呼び出す）、ワイルドカードサーチ（英和モード、うる覚えの単語も簡単検索）、ブランクワードサーチ（英和モード、分からないスペルの所に「～」を入れて検索）、ジャンプサーチ（訳中の知らない単語をさらに調べる）が付いている。その他の機能として、文字サイズが選べることや、電池寿命が長く（約 130 時間）、レジューム機能（電源を入れると前回使用していた画面が表示される）や、ズーム機能（広辞苑モード）、発音記号表示、オートパワーオフ、12 桁電卓付きである。〔定価 4 万円〕

このシリーズでは、その他、英単語発音機能搭載のもの、手書き認識機能搭載のもの、名刺サイズのもの、音声機能で英会話のできるもの、旺文社発行の『英会話 110 番 海外旅行編』から英会話例文 110 文が収録されているものなどがある。また、辞書の語数が少ないだけ、定価 5 千円と買い易く、手軽に持ち歩ける電子辞書も出ている。

#### (2) キヤノンの「ワードタンクスーパーIDF - 3000」

搭載辞書については、『スーパーアンカー英和辞典』（学研、約 12 万 8 千語）、『ニューアンカー和英辞典』（学研、約 7 万 9 千語）、『現代新国語辞典』（学研、約 11 万 8 千語）、『漢字源』（学研、約 41 万語）の 4 冊を収録。英和辞典の画面も文字が大きく見やすいのが特徴である。検索語を入力中に、候補の単語を一覧表示してくれるので、いちいち最後まで入力する必要がなく便利である。英文成句検索では、英和辞典に収録されているイディオムの検索が可能である。辞書間のジャンプ機能もあり、和英辞典に出てきた英語の意味を英和で調べるのも簡単。スペルチェック機能、ワイルドカード機能（不明な文字を \* で代用）付き。国語・漢和辞典は縦書き表示が可能。文字が大きいため、長時間見ても目が疲れにくいのは大切な要素である。英語学習者のための機能として、暗記したい語を選び、「単語帳」に登録したり、検索した語を 30 語まで一覧表示して、その意味を確認したりすることができる。

〔サイズは、横 14cm×縦 9.5cm、厚さ 2.67cm。重さ 230g。単 3 電池 2 本で約 180 時間使用可能。価格 32,000 円〕

#### 4. CD-ROM による詩の新しい楽しみ方<sup>8</sup>

日本で CD-ROM による初めての全集『谷川俊太郎全詩集 CD-ROM 版』<sup>9</sup>が発行された。『二十億光年の孤独』以来の詩篇約 2 千と英訳詩 630 篇を収録している

<sup>8</sup> 『図書 621 号』（岩波書店、2001 年 1 月）8-13 頁。

<sup>9</sup> 『谷川俊太郎全詩集 CD-ROM 版』（岩波書店、2000 年 10 月 1 日発行）、定価 19,000 円。ISBN : 4001301296 .

という。詩人によれば、「詩集」というより、「データベース」という感覚が強いという。分厚く、重量があり、場所を占める紙の束が、一枚の軽い円盤になる。権威主義から解放されている。CD-ROMの場合、テキストだけではなく、映像や朗読の音声も入れられる。そこで、生身の聴衆の前で朗読したライブのものを収録したという。沢山の量をCD-ROMに入れると、本だと一冊一冊取り出して読まなければならないものが、ザッとスクロールして読み、全体像を掴んだり、年代順の流れや変化を読み取ることも可能かもしれない。卒業論文を書く大学生にとっても、このような文学作品のCD-ROM版は役立つはずである。

『谷川俊太郎全詩集 CD-ROM 版』には、54冊の詩集が収まっている。しかし、色々なキーワードによって彼の詩が分類されている。キーワードは、「夏」とか「恋愛」などのテーマ別にも、あるいは一つの単語でも、または二つの単語の組み合わせでも全文検索が可能である。谷川氏が50年間書きためた詩が一枚のCDに納められ、日本で出版された本と外国で出版された翻訳本の計74冊が入って、19,000円とすると、それは一体何を意味するのだろうか。便利であると同時に、失われた、あるいは置き去りにされた「何か」があるにしても、お買い得であることには違いない。

#### 5. CD-ROMによる新しい聖書研究法：

『バイブル・ライブラリー CD-ROM 版』

*The Bible Library CD-ROM Version 4 Deluxe Edition*<sup>10</sup> は、聖書14冊、語句研究(Word Studies)6冊、コメンタリー5冊、コンコーダンス(Cross References & Concordances)6冊、歴史研究(References Historical Works, Helps)13冊、トピック研究(Topic Studies)8冊、21の地図、1千のイラスト(Christian Clipart Images)を内蔵したもので、聖書研究はこの一枚のCD-ROMで済んでしまうと思える程、膨大な内容を含むものである。

「アメリカ標準訳聖書」(American Standard Version)、「欽定訳聖書」(King James Version)、「リビング バイブル」(Living Bible)、「新欽定訳聖書」(New King James Version)、「新改訂標準訳聖書」(New Revised Standard Edition)、「ヘブライ語ギリシャ語訳」(Hebrew-Greek Transliteration)、「国際英語新約聖書」(Simple English Bible New Testament)などの聖書、ストロング社のギリシャ語辞典・ヘブライ語辞典からの語句研究、バークレーの「デイリー・バイブル・スタディ・シリーズ」や、グレイやヘンリーによるコメンタリー、聖書事典・神学事典、その他諸々の参考文献、101の讃美歌物語、500の説教例と2500の説教梗概、等々と全く驚くばかりの内容である。ヘブライ語

<sup>10</sup> *The Bible Library CD-ROM Version 4 Deluxe Edition* (Las Vegas: Ellis Enterprises, Inc., Talicor, Inc., 2000). ISBN: 0967487102. サイズ (cm) : 25 × 21.

やギリシャ語を知らなくても、ローマ字化により、原語を探索することができる。

数冊の聖書を傍らに置き、読み比べていた時代は確実に過ぎ去ったようで、同じ聖書箇所がどのように異なって翻訳されているかを、即座に比べることができる。旧約時代の預言者たちの活動範囲を記した地図など興味は尽きない。また安価である。ギリシャ語やヘブライ語<sup>11</sup>の原語の意味も瞬時に参照することができるのだから、画期的と言うしかない<sup>12</sup>。神学者、牧師ばかりか、一般キリスト者にとっても、また英語のできる人なら誰でも、聖書に興味のある人には、お勧めの CD-ROM である。[「アマゾン・ドット・コム日本支社」(<http://www.amazon.co.jp>)で購入できる。定価 5,136 円]。「バイブル・ライブラリー」のホームページは、(<http://www.biblelibrary.com>)である。パソコンをお持ちの方は、こちらから探索するのも良いだろう。製品のダウンロードも可である。

## その他

### 1. TOEFL 試験のコンピュータ化

TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は、アメリカの高等教育機関に留学を希望する外国人を対象に 1964 年にスタートし、65 年に世界最大の教育機関である ETS (Educational Testing Service) と大学入試委員会との共同運営となった。アメリカやカナダに留学することを志す者にとって、TOEFL が第一の関門となる。指定された TOEFL の点数を取ることを、入学許可の必要条件の一つに数えている大学が多いからである。英語を母国語としない人々が、英語による授業を受け、英語で生活し、英語でコミュニケーションする能力がどの程度あるかを計る試験が TOEFL である。最近、この TOEFL がコンピュータ化され<sup>13</sup>、便利になった。自分のパソコンに問題をダウンロードして、模擬試験を受けてみることもできる。TOEFL のサイトは、「toefl.org」(<http://www.toefl.org/>)で、「Computer-Based TOEFL」「Download Library」などのカテゴリーを開いていくと良い。

### 2. インターネット放送

これまで通信衛星の発展により、CNN を直接、視聴することができるようにな

<sup>11</sup> ヘブライ語についての情報は、(株)ミルトスのホームページが役に立つ。  
(<http://www.myrtos.co.jp>)

<sup>12</sup> 筒井脩『英語学習のための CD-ROM 入門 辞典・聖書・英米文学』(大阪教育図書株式会社、1996 年)参照。

<sup>13</sup> Kyoko Yamaguchi "Language Lab: Computerized TOEFL challenges examinees" (*The Daily Yomiuri*, Jan. 29, 2001)

った。静岡県浜松市に住む筆者も、浜松ケーブルテレビにより、24 時間 CNN や BBC を見ることができる。日本にいながら、朝は英字新聞を広げ、仕事から帰れば、テレビの CNN をつけて、その日の世界のニュースを見るという生活である。しかし、アメリカの一般テレビ局の放送を見るまでには至っていなかった。ところが、「インターネット放送」という大きな技術革新により、テレビ局が放送をそのままインターネットで流し始めたのを知ったのである。

この「インターネット放送」について、英語教育の現場にいる教師たちに紹介・発信してくれているのが、東海大学の朝尾幸次郎教授である<sup>14</sup>。彼のホームページ（<http://www.hum.u-tokai.ac.jp/asao/etm/broadcast.html>）に入り、トップページに挙げられているインターネット放送局名をクリックすれば、そのリンク先を開くことができる。その一例をもって紹介してみよう。放送局名の中の、「KGW Northwest News Channel 8」<sup>15</sup>を選ぶ。アメリカ合衆国オレゴン州ポートルランドに本拠を置く KGW Northwest News Channel 8 のインターネット放送で、24 時間生放送をしている。番組を見るためには、「Watch KGW Live」という部分をクリックする。そのテレビ画面が開かれる。このままでは映らない。Real Player が必要である。そこで、そのすぐ下に用意されている Video Options の中から Download and Install Real Player をクリックして、フリーの「Real Player 8 Basic for windows 98」を無料ダウンロードする。もう一度、番組に戻り、その画面の下方にある「KGW-TV Program Schedule」の番組表から見たい時間をクリックすれば、これで準備完了である。浜松にいながら、かつて留学していたポートルランドのテレビ・ニュースを、横 5cm×縦 4cm サイズの画面で、クリアな音声と画像で楽しむことができる。特に音声は抜群に良く、生の英語を堪能できる。まさに 21 世紀の幕開けといった感じである。そして、パソコンの技術が、パソコンの世界が、物凄い勢いと速度をもって、この世界の何かを大きく変革していることを知るのである。

インターネット放送は、ニュース番組だけではなく、家族向け娯楽番組や映画を見ることもできる。ただし、このためには、回線の接続速度に 64 K か 128 K が欲しいといった、接続環境の改善が求められる。特に、学校などの教育機関では、高度通信サービスが利用できなくてはならない。

## 終わりに

急速な勢いで発展を遂げているパソコンが、大学の英語教育・研究にどのように関わり、どのように利用することができるのかについて検討し、検証するこ

<sup>14</sup> 朝尾幸次郎「ネットワーク通信：インターネット放送」『英語教育 12』（大修館書店、2000 年 12 月）

<sup>15</sup> 「KGW Northwest News Channel 8」（<http://www.kgw.com/kgwnews/watchkgwlive.html>）

とを試みてきた。インターネットにより、世界中の生の情報が瞬時に手に入り、いつでも利用することができるようになったのは確かである。インターネットほど、生きた英語に満ち溢れた世界はない。自分のPCのWeb上で、居ながらにして情報検索を行うことができ、また音声や画像も楽しめる。

メール交換の実践により、受身の語学学習者が発信する側に回る。外国人に何かを伝えたいという熱い思いが、話し手・聞き手という社会的関係が結ばれている中で、言葉を実際に使うという行為に至らせる。生きた語学レッスンと言える。意味のあるメッセージを交換し、驚きや喜びを経験することを通して共に学び合う。つまり、ネットワークを仲立ちにした教育実践が可能になってきたことを意味する。

2000年夏に、私のゼミ生と、浜松市内に日本語語学研修のためにホームステイしていたリッチモンド大学生との交流会を催した時のことである。その後、日米の大学生たちは早速メールで連絡を取り合い、地元のレストランや喫茶店でさらに交流を深め、そしてアメリカ人学生たちは帰っていった。その中の一人の大学生のホームページに、本学の大学生が送った写真や英文手紙が貼りつけられたという。それを知った彼女もまた驚きと共に喜びを隠せず、秋学期にゼミ仲間にも報告した。このような事が日常的に起きる時代に入ったのである。

インターネットの世界は英語の世界で、そこを探索する人は英語の世界を泳いで行かなくてはならない。インターネットの世界では、大量の英文の読解力、英文による発信力（英作文能力）が必要とされる。これまで、実用英語の修得のために、わざわざ海外に出かけて行ったものだが（海外旅行、留学、海外勤務等）、今やっとなら日本に居ながらにして、英語を使うことができるようになった。

インターネットは膨大な量の情報を提供しているので、どこから手をつけていったら良いのか途方に暮れる。そこで、偶然にリンクページから自分の必要としている情報を得た時や、友人からの耳よりの情報、関連書物から価値ある発見をした場合など、普段から意識して、それらの使える情報をストックしておく習慣を身に付けたい。これは情報と知識の宝で、必要な時に数百倍の威力を発揮するであろう。心がけ一つで、時間、お金、エネルギーを無駄使いせずに済むばかりか、自由に使いこなせるようになれば、貴重な道具（ツール）となって働いてくれる。本稿では、翻訳ソフトの比較にまでは至らなかった。次回に稿を改めたいと思う。

（2001年2月5日 受理）

